

宮城大学 後援会報

Vol.40

発行
平成25年3月31日

発行者
〒981-3298
宮城県大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

平成24年度 第13回卒業式

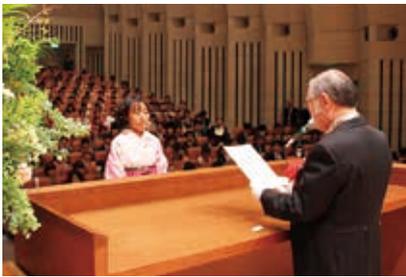
462人、 さっそうと社会へ

平成24年度卒業式が3月19日、宮城大学講堂で行われました。

当日は、保護者、来賓、大学関係者が見守る中、学部生421人、大学院生41人の合わせて462人が社会へと巣立って行きました。

西垣克学長は式辞で「大学における教育課程を修了しましたが、長い人生において学ぶことに終わりが無いということ深く自覚して、生きている限り学び続けていってほしいと心から望みます。今日から新たな気持ちで学び直しを始め、この震災の語り部としてさらに震災を乗り越えてきた強い意志を持った人間として、新たな世界へ勇飛して旅立っていただきたい」と述べ、卒業生を激励しました。

県議会開催中のため村井嘉浩宮城県知事に代わって出席いただいた三浦秀一副知事からは「これから皆さんが進まれる道は、平坦な道ばかりではないと思います。今後は、宮城大学で身につけた『知識』や『技術』、『思考力』と『行動力』を基に研鑽を積み、人生において急峻な道にさしかかったときも、委縮することなく、さらなる飛躍の好機とされるよう期待します」と知事からのメッセージを紹介いただきました。



卒業生を代表して食産業学部環境システム学科の白鳥舞さんは「卒業後は、社会にでる者・研究を続ける者、皆それぞれに違う道を進みますが、本学で学べたことを礎に社会に貢献し、誇りをもって前進を重ねて参ります」と社会人としての決意を述べました。

式後は恒例となった中央階段での記念撮影が行われ、大学生生活最後の思い出が写真に納められました。

宮城大学グローバルイニシアチブの取り組み

宮城大学とベトナム

ベトナムは2012年推計で9038万8千人の人口(世界第13位)を有し、ここ数年急速な発展を遂げています。平均年齢28歳(ちなみに日本は44・6歳)と若いエネルギーに満ち溢れたこの国では人口・経済成長による需要に応えるため海外教育機関との協働を進めており、本学もその一翼を担えればとプロジェクトが進められています。その一環として2011年12月より5回ほどベトナムを訪れる機会に恵まれました。実は今この原稿もフエで執筆しています。

第2回リアル・アジア(ベトナム研修)プログラム参加学生6人と共に再びベトナムの地を訪れており、ホーチミン、ダラット、ホイアン、ダナンを歴訪しフエに入りました。充実した研修内容の一つを紹介しましょう。

ダナンより南西へ約80kmの山岳地域に住む少数民族カトゥー族を訪問しました。伝統舞踊で迎え入れ

られた我々一行は、民族衣装をお借りし民族舞踊を教わったり、郷土料理を味わったりと貴重な体験をしました。

留学は人生を変えうる、学生時代の今こそ挑戦してほしい経験の一つです。一生涯の友人を作り、語学力を向上させ、視野を広げ、異文化に触れ、自国の文化を再認識し、自己認識力を鍛えることができる素晴らしい機会であることを認識いただければ幸いです。本プログラムが本学学生にとって国際社会で活躍し成功するために必要な知識、能力、経験を得る好機となるよう、保護者の皆さまの温かなご支援とご理解を今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(国際交流・留学生センター長
ティモシー・J・フェラン)



ホーチミン中央郵便局の前で記念のジャンプ(12月リサーチ隊)



カトゥー族のみなさんと

記事
一覧

2面●卒業研究・制作展、シリーズ「絆」
3面●「息吹Ⅱ」発刊、コラム「五風十雨」(完)、就職支援

4面●学長表彰、「教員からの一言」、就職内定率 総案内、卒業記念事業

力作揃え71人展



ポスター

2月22日から27日まで、せんだいメディアテークにおいて、卒業研究・制作展を開催しました。デザイン情報学科でデザイン情報学を学んだ学部生64人と、事業構想学研究科(博士課程前期)で事業構想学を学んだ大学院生7人が、1年間の成果を展示し、会期中645人という多くの方々にご覧いただきました。

都市的スケールのランドスケープや建築のデザイン、玩具やリーフレットのデザインなど、学生の皆さんが制作のテーマにしたデザインの対象はさまざま。その中で、異彩を放っていたのが情報デザインのコーナーでした。最新の情報技術を用いた展示は、さらながら実験室のようでしたが、内容は仮想空間において面白い体験ができる、親しみやすいものでした。このような卒業研究・制作展は、多様な学問領域をもつデザイン情報学科の実態を知るまたとない機会ではないかと思えます。大学の広報活動の一環として、高校にも案内するなど、組織的に運営できたらいいですね。来年の卒業研究・制作展も、優れた情報の発信地と言えるせんだいメディアテークで開催します。(平成26年2月21日～26日の予定)

(デザイン情報学科助教 相模晋雄)



プロダクトデザインの作品



空間デザインの展示コーナー



情報デザインの展示コーナー

絆

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。9回目に登場いただくのは、昨年、食産業学部フードビジネス学科を卒業し、宮城大の職員となった藤本明希さんです。社会人として歩み始めた藤本さんの様子をご紹介します

「気づき」の大切さを感じる日々です

フードビジネス学科4期生(H23年度卒) 藤本明希

昨年の3月に食産業学部を卒業し、10月に事務職員として母校に戻ってまいりました。食産業学部での学生時代は、活動のほとんどに食が関わっていました。特に、2年生の頃に参加した商品開発プロジェクトでは、コンビニ弁当の商品開発に挑戦しました。チームの仲間と案を練り、企業の方の前でのプレゼンテーション審査を経て自分たちが企画した案が商品化されたときの達成感は大きなものでした。

また、友人はもちろん、先生方と一緒に活動する時間がとても多い日々でした。大学時代の友人や先生方とは、今でも休日に会ったり大学祭などのイベントと一緒に出席したりと、楽しい時間を共有しています。

現在、大和キャンパスの事務部学務課教務第一グループで仕事をしています。時間割調整や履修登録、成績管理などの細かなチェック作業に加え、講義室のセッティングや入試の会場設営などでは、体を動かす作業も多くあります。日頃、仕事に取り組み中で、先生方や先輩職員の細やかな気づきに教えられることがたくさんあります。大学職員の仕事は、ルー

ティンワークをこなすだけでなく、臨機応変な対応が求められる事も多く、大変助けられています。私もこの「気づき」を心がけながら仕事に励んでいます。宮城大学は、カラーの違う3学部があるため、学生の皆さんの研究活動や課外活動の様子を目にするたび、いつも新たな発見があり刺激を受けています。また何よりも、学生の将来にかかわるこの仕事は、責任の重さを感じるとともにやりがいのある仕事だと日々実感しています。

働き始めて半年が経とうとする今でも、毎日新たな仕事を覚えることで死でずが、学生や先生方とともに宮城大の未来を作っていく一員として、精一杯努力していきたいと思っています。



ちょうど1年前、沖縄で学生時代最後の旅を満喫していました。

パラダイス・ドライブ

食産業学部教授
森山雅幸

オレゴン大学を卒業して3年目の5月、勤めていたランドスケープ・デザイン事務所から車で15分ほど離れた、歴史ある美しい町・ティブロンに住むことになった。晴れた日は、この町の南側からサンフランシスコ湾を隔てて、対岸に白く輝くサンフランシスコの町が良く見えた。パラダイス・ドライブは、ティブロン東側を通る道路の名称である。走る車から眺める緑地や水辺は、パラダイスを感じさせる美しい景観が広がっていた。



民間会社によって整備された水辺のパブリックスペース(ティブロンショアライン・パーク)と後方のエンジェルアイランド

このパラダイス・ドライブからサンフランシスコ湾の水辺まで、敷地面積約5,000坪にある大邸宅のゲストルームを借りることが出来た。その条件として、週末に敷地内のコートで家主のテニス仲間達とプレイすること、そして菜園や果樹園の庭仕事を手伝うことをOKしたからだ。いっふう変わったこの家は、本物のバージ(野菜運搬用の平底船)を砂浜に固定し、その上にコテージ風の平屋を建てたユニークなデザインだった。この家に住み始めて数週間が経ったある夜、ドスンという音と振動で目が覚めた。窓の外を覗くと船底の周りが流木で溢れ、たくさんの丸太が船底にぶつかっては波に大きく揺れていた。そのため、海が荒れる度に砂浜に打ち上げられた流木拾いや、傷んだ船底の修理など家修理ならぬ船修理を頼まれていた。



砂浜の平底船にデザインされたユニークな家(手前角のゲストルームを間借りしていた)

ゲストルームの大きな窓に映るサンフランシスコ湾から昇る朝日や沈む夕日に、まるで映画のワンシーンを観ているような錯覚を覚えた。夜の漁火もロマンチックで、一人飲むワインが勿体なく感じたこともあった。船底に保管してあるワインをどんな大和撫子と一緒に飲めるのか…、と思いを馳せた。

その夏、この部屋を訪れた女性と、今も一緒に暮らしている！

その夏、この部屋を訪れた女性と、今も一緒に暮らしている！

ゲストルームから見るサンフランシスコ湾の朝日とプライベートビーチ

事業構想・食産業学部合同で2回実施 合同企業説明会に多数の企業・学生が参加

今年度の合同企業説明会は、昨年12月と本年1月の2回にわたって開催され、合わせて99社の企業、延べ424人の学生が参加しました。昨年度に比べて参加企業数が22社増加しただけでなく、業種も多様化してきており、企業の本学に対する信頼感が高まっていることを改めて実感致しました。

学生の訪問企業数は平均して約3.5社であり、参加学生のアンケートを見ると、昨年12月時点では「イメージでなく実際の企業像を知ることができた」「業界・企業研究の重要性を感じた」などが多かったのですが、本年1月時点では「採用スケジュールを確認できた」など、より実践的な感想が増加しました。また、約6～7割の学生が説明会に参加した企業の「会社説明会に参加したい」「エントリーしたい」と回答しており、学生にとっても有意義な説明会になったことがうかがわれます。



開催のあいさつをする西垣学長



企業の説明を熱心に聴く学生

今後とも、よりよい企業説明会となるよう工夫していきたいと思っておりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(キャリア開発センター長 田邊信之)

後援会15年のあゆみ 「息吹Ⅱ」を 発刊しました



「息吹Ⅱ」を発刊しております。今回はその後の5年間の活動を中心に記した、後援会15年のあゆみ「息吹Ⅱ」を発刊することとなりました。

編集に当たり、後援会の事業だけでなく、2つの特集を掲載しています。

一つは、この5年間の出来事として忘れることのできない東日本大震災での後援会、学生、大学の復興支援活動の様子について。もう一つは、村井嘉弘宮城県知事へのインタビューと西垣克宮城大学長の寄稿により、今後の大学の進むべき未来像についてです。

また、多くの教員・卒業生の方から寄せられた「声」を所々に配し、学生が成長した姿を紹介しています。後援会員だけでなく、多くの方に宮城大に興味を持っていただける内容を心がけております。

2011年12月に編集委員会を立ち上げてから1年3ヵ月をかけ完成にこぎつけました。4月下旬ころに皆さまにお届けする予定です。

(後援会理事 編集委員長 下山晴朗)

後援会は、発足から今年度で15年目を迎えました。会員のみなさまに後援会活動や学生の活躍を知っていただくため10年目の2009年3月に「息吹Ⅱ」を発刊しております。今回はその後の5年間の活動を中心に記した、後援会15年のあゆみ「息吹Ⅱ」を発刊することとなりました。

新規就職支援 後援会で費用を助成 自己を分析的確な職業選択を

今年度の新規就職活動支援策として、(株)リアセック社に委託し自己分析診断検査(以下、R-CAP)が実施されました。



新規就職支援 R-CAP実施後に行われた解説会＝太白キャンパス

このR-CAPは学生自身が自分を知る目的で行う職業適性診断などのための心理テストであり、本学学生にとって重要な内容と考え採用致したものです。大和キャンパスでは昨年12月25日(火)、太白キャンパスでは今年1月15日(火)にそれぞれ専用紙を配布し、学生が各自解答して後日回収をするという形で実施されました。対象は学部3年生で、大和キャンパスでは182人、太白キャンパスでは121人の学生が参加しました。その後、2月12日と13日の2日間に渡って両キャンパスにて解説会も開催されています。

この取り組みに関する学生へのアンケートを参照すると、R-CAPは97%が概ね就職活動に役立つと回答しており、その解説会に対して100%の学生が満足し必要性を感じていたことが分かり、学生らが自身のことをよく知り、客観視される術としてR-CAPの導入は有効であったと考えております。

(キャリア開発副センター長・藤原正樹・須田義人)

教員からの一言

緩やかにつながって
いきましょ

事業構想学部准教授 高力 美由紀

私が宮城大学に赴任して4年が過ぎようとしています。初めて迎えた新入生がこの4月に社会人としての一步を踏み出します。

私はマーケティング分野の授業やゼミナールを担当していますが、常に意識して学生の皆さんに伝えようとしています。視点がいくつかあります。「ものごとには様々な見方がある」「白黒をはっきり付けることは難しいとき少しでも『より良い』選択を目指すことが重要だ」などです。

そして、卒業生たちには、「緩くつながろう」と呼びかけています。固いきずなも良いけれど、張りすぎた糸は切れやすい。緩くしなやかなネットワークを縦横に広げていくことも楽しいはず、と考えるのです。

今はSNS (Social Networking Service) を使ってどこかで誰かと何となくつながっていられます。授業やゼミナールで、個々人の力を鍛え、チームの中でも十二分に活かすことに注力している宮城大生だからこそ、緩やかなつながりの中からも、新しい何かを創造することができるのだと信じています。

平成24年度 就職内定状況 平成25年3月1日現在

| 学部・学科・コース | 卒業 予定 者数 | 就職 希望 者数 | 内定 者数 | 内定率 | 前年度 同期 | 左記内定者の 県内外比率 | | | |
|------------|----------------|----------------|----------|-------|-----------|-----------------|-------|-------|-------|
| | | | | | | 県内 | 県外 | | |
| 看護学部 看護学科 | 99 | 93 | 90 | 96.8% | 97.8% | 68.9% | 31.1% | | |
| 事業構想 学部 | 事業計画学科 | 93 | 83 | 79 | 95.2% | 97.7% | 48.1% | 51.9% | |
| | デザイン 情報学科 | 情報システム コース | 16 | 14 | 14 | 100.0% | 86.7% | 50.0% | 50.0% |
| | | 空間デザイン コース | 35 | 28 | 25 | 89.3% | 94.1% | 32.0% | 68.0% |
| | | デザイン情報 コース | 46 | 39 | 36 | 92.3% | 93.8% | 50.0% | 50.0% |
| 食産業 学部 | ファームビジネス学科 | 44 | 39 | 39 | 100.0% | 97.1% | 48.7% | 51.3% | |
| | フードビジネス学科 | 54 | 51 | 49 | 96.1% | 98.0% | 28.6% | 71.4% | |
| | 環境システム学科 | 35 | 27 | 24 | 88.9% | 100.0% | 62.5% | 37.5% | |
| 学部計 | 422 | 374 | 356 | 95.2% | 96.8% | 50.8% | 49.2% | | |

| 研究科 | 修了 予定 者数 | 就職 希望 者数 | 内定 者数 | 内定率 | 前年度 同期 | 左記内定者の 県内外比率 | |
|-----------------|----------------|----------------|----------|--------|-----------|-----------------|-------|
| | | | | | | 県内 | 県外 |
| 看護学研究科 (前期課程) | 4 | 4 | 3 | 75.0% | 100.0% | 33.3% | 66.7% |
| 事業構想学研究科 (前期課程) | 22 | 22 | 20 | 90.9% | 85.7% | 45.0% | 55.0% |
| 事業構想学研究科 (後期課程) | 1 | 1 | 1 | 100.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% |
| 食産業学研究科 (修士課程) | 14 | 13 | 12 | 92.3% | 100.0% | 41.7% | 58.3% |
| 大学院計 | 41 | 40 | 36 | 90.0% | 90.9% | 44.4% | 55.6% |

編集後記

もう二年、まだ二年。さまざまな思いの中で、また、3.11が巡ってきました。

その日メディアで震災関連のニュースがいろいろ伝えられました。前に進むにも、厳しい現実には直面し右往左往している被災者の何と多い事でしょう。時間の経過とともに記憶が薄れるのは人間として当然のことですが、意識して震災を記憶に留め、自分ができることを考えながら被災地に気持ちを向け続けて行かなければならないと思いました。(S-1)

2012 学長賞・学長奨励賞

学生1人と
5団体が
受賞

在学中に研究活動、課外活動、社会活動において顕著な

成果をおさめ、大学の名誉を高めた学生に対して、学長賞、学長奨励賞が贈られます。今年は、震災復興支援のプロジェクトチームとして継続的に支援活動を続けてきた団体の受賞が目立ちました。受賞者を紹介します。

学長
奨励賞

高橋 妙理(看護学部1年)

第46回全国学生剣道優勝大会(主催: NPO法人日本剣道協会、後援: 文部科学省)において、女子個人実戦競技の部で優勝し、かつ優秀選手賞を獲得

標札デザインプロジェクト 10人(任意団体)

日本デザイン学会秋季企画大会において「標札デザイン」が「思索的で賞Reflective Award」受賞。(標札デザイン)は仮設住宅に住む方々の家族の証となる「標」をつくる(仕組みをつくる)というプロジェクトである

Team A Book 31人(任意団体)

南三陸町戸倉長清水の集落再生・復興支援活動として、地域住民の新たな生活設計を視野にいた「ナガシズ スケープ」ワークショップ、「逃げ地図」ワークショップなど、新しい地域デザインを模索した多様な活動がデザインプロジェクト「A Book for Our Future, 311」として多くの人に認知され、2012年度グッドデザイン賞受賞。

学長
奨励賞

照明探偵団 in 仙台実行委員会 7人(任意団体)

「照明探偵団シンポジウム in 仙台」の開催に当り、主催者として活動した。「震災後～暮らしの中の灯りを考える」をテーマとして多くの人から好評を得た。

@グリーン(アット・グリーン) 24人(任意団体)

仮設住宅入居者の自立を支援する「農業支援プロジェクト」へ参加、農と食の専門知識と技術を生かした支援を行う。大学祭で、坪沼産のかぼちゃで作ったクッキーを被災者と一緒に約300袋を売り切り、売り上げを活動に参加した被災者へ全額贈呈した。また、加工実習でソーセージ、みそ作りなども実施、大変喜ばれている。

宮城大学軟式野球部 23人(サークル団体)

創設8年目にして全日本軟式野球選手権で地区代表として東北大会へ出場、準決勝まで進出し、ベスト4入りを果たした。

Information

平成25年度
後援会総会を開催します

平成25年4月3日(水)午後12時10分より、大和キャンパス大講義室において、新会員を迎え、平成25年度後援会総会を開催致します。議題は平成24年度事業報告・決算報告、平成25年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようご案内致します。

平成24年度 卒業記念事業を実施しました

◎大学への記念品

大和キャンパス ● テーブル付き電子レンジ4台
(学生ラウンジへ設置)

太白キャンパス ● ワンタッチ式テント1張
折りたたみテーブル・ベンチセット 4組

◎卒業生への記念品

印鑑(ネーム印・訂正印)

◎謝恩会費用一部助成